



令和元(2019)年9月例会ご案内 (バスツアー; 葛城古道をあるく)



日 時 令和元年9月4日(水曜日)

バス研修

バスと徒歩を組み合わせて史跡^{たかまがほら}高天原はじめ、神話と古代王朝の足跡を残す史跡を訪れます。歴史を感じる古い町並み、美しい田んぼや大和盆地の遠景を楽しみながら葛城古道を歩きます。

コース

平群町中央公民館 (8:50 出発) ——— 高鴨神社・歴史文化館 ——— 高天彦神社

----- 橋本院 (昼食) ——— 高天彦神社 ----- 極楽寺 ----- 住吉神社 ----- 長柄神社

----- 吐田 (はんだ) 館跡 ----- 一言主神社 ————— 九品寺 ———

[バスと徒歩に分かれる]

道の駅「かつらぎ」 ——— 王寺駅 ——— 椿井橋 ——— 平群町中央公民館
(下車) (下車) (解散: 18:30頃)

————— バス移動

----- 徒 歩

◆集合場所・時間: 平群町中央公民館(8時50分集合/時間厳守)

◆解散場所・時間: " (18時30分頃) ◆ 歩行距離 約5.5km

☆ 帰着時間は交通事情によって前後します。

◆定員と最小実行人数: 45名(30名以上で実行します)

☆ 雨天決行です。

◆費用: 一人 4300円(40名)~ 5200円(30名) [昼食1728円含む]

費用は参加者数で変動します。当日精算して、バス乗車時に集金します)

◆参加申込み: 8月10日(土)~8月31日(土)

各地区の幹事様を通じて、幹事様不在の方は直接河本(携帯 080-6112-3406

／Fax0745-45-2709)まで申込み下さい。各幹事様は人数がまとまり次第、出来るだけ早く河本まで連絡下さい。

申し込み順で受付け、定員(45名)になれば受付を閉め切らせて頂きます。

尚、定員をオーバーした場合は、会員を優先させて頂きます。

◆ 申込後のキャンセル

9月2日(月)午前中までに出来るだけ早くご連絡下さい。

その後は弁当代 1728円の支払いが必要です。

◆ 保 険

参加者全員について、団体加入の下記傷害保険と賠償責任保険が適用されます。

傷害保険: 死亡・後遺障害 500万円、入院治療日額 5000円(180日限度)、通院治療日額 3000円(90日限度)

賠償責任保険: 身体5000万円、財物100万円

◆ その 他

8月例会(第40回夏季公開講演会)報告 企画部

◆タイトル: 「平群と唐古・鍵遺跡」

◆講 師: 田原本町埋蔵文化財センター長

藤田 三郎 先生

(講演時間13:30~15:20)

令和元年8月4日(日)、第40回夏季公開講演会が開催されました。

講演会に先立ち「平群史蹟を守る会」河本会長の主催者挨拶、続いて来賓各氏のご祝辞を頂いた後、藤田先生の「平群と唐古・鍵遺跡」についての講演がありました。

<お話の骨子>

平成12年の発掘調査で弥生時代の大集落「唐古・鍵遺跡(田原本町)」からの重要な遺物の一つとして、ヒスイ製勾玉を納めた褐鉄鉾容器が出土した。

本来、考古学の対象は「人が造ったもの」であり、褐鉄鋼は自然の産物であって考古学の対象とはならず捨てられてしまう。それが唐古遺跡の最重要な出土品の



一つとして位置づけられた理由は、①漢の時代にこの褐鉄鋼容器(鳴石)が禹余粮(ウヨロウ)の名で不老長寿の薬として珍重されていた②日本では正倉院の宝物として「種々薬草帳」に載せられており薬として貴重なものであった。

加えて、唐古遺跡から出土した鳴石の中に納まっていたヒスイの勾玉の一つは長さ 4.6 cmと最大級のものであること、もう一方は小さいが最上級の品質のものであることから貴重なものであり、さらに鳴石が出土されたのはこれまでに唯一唐古遺跡だけであることなどにその重要性がある。

その時代に平群の山に行ってみつけて持ち帰ったのか、平群から持ち込まれたのか・・・距離的に近く可能性が考えられる。

「褐鉄鉞」とは大阪と奈良の県界ぐらにある「大阪層群」の砂礫層中で、粘土を核として、その周辺に砂礫が鉄分で凝縮して生成された自然の鉞物で中の粘土が収縮して隙間が出来、振ると音がすることから「鳴石」とも呼ばれ、この周辺では平群町から南生駒あたりで採取される。

この「鳴石」が「唐古・鍵遺跡」の集落を区画する溝から勾玉入りの褐鉄鉞容器として出土しており、これらの事実やこれまでの発掘調査の成果から見て「唐古・鍵遺跡」の勢力がヤマト王権成立の大きな力になったと考えられる。

[来聴者合計251名(内会員47名)]





会場内には平群町教育委員会所蔵の鳴石が展示され来場者に直接触れていただきました

会員の皆様へ

編集部では「会報」をより身近なものにしていくため、会員の皆様から寄稿をお願いしたいと考えています。

例会関連記事・コラム・詩・俳句等内容は特に限定しませんが寄稿の内容や紙面の関係のため編集を加えたり、掲載時期が遅れることがあります。

編集部